

第112回国試の概要:「臨床医の立場で考えさせる新・国試」

医学教育研修センター

- 試験要項が改訂された結果、単純知識を問う問題が100問減少し、臨床問題を中心とした出題が相対的に増加した。
- いまの医療現場で研修医として働くための能力を測ろうとする姿勢が明確になった。
- 診療参加型臨床実習を通して、臨床現場での経験を深めるとともに、様々な臨床判断を経験する必要がある。

1.現場での見聞を前提にした出題

B11 酸素投与法、酸素流量と想定される吸入酸素濃度の組合せで正しいのはどれか。

- A 鼻カニューラ2L/分 - 20% B 鼻カニューラ4L/分 - 50%
C マスク6L/分 - 80% D リザーバ付きマスク7L/分 - 50%
E リザーバ付きマスク10L/分 - 90%以上

昨年も出題あり。酸素投与器具と酸素濃度の関係は、学生時代に修得すべき基本的知識という位置づけになった。

C58 手術室入室後、皮膚切開までの間に行うべきなのはどれか。**2つ選べ。**

- A 剃毛 B 抗菌薬投与 C タイムアウト D 肺動脈カテーテル挿入
E インフォームド・コンセント取得

手術手技の見学だけでなく、むしろ入室時や術後管理など、術前後のケアを学生に経験させることが求められている。

A57 48歳の男性。意識障害で搬入。2型糖尿病の内服治療中。多飲傾向あり。昨日は糖尿病の薬を内服し多飲後に就寝した。朝になっても起きてこず、家人が様子を見に行ったところ反応がおかしかったので救急車を要請した。JCS II-20、その他バイタルサインに特記事項なし。家人が持参してきていたお薬手帳を右に示す。血糖に加えて、まず確認すべき血液検査項目はどれか。

- A 乳酸 B ケトン体 C インスリン
D アルコール E 血清浸透圧

お薬は用法用量を守って服用してください

○△大学附属病院 診療科名:内分泌代謝内科 患者名:厚生 太郎 患者ID:112-0013 医師名:労働 二郎 処方日:2017/12/21	①グリメピリド 0.5mg錠 1回1錠 (1日1回) 朝食後 28日分
	②メトホルミン塩酸塩 250mg錠 1回1錠 (1日3回) 朝昼夕食後 28日分

○△大学附属病院 診療科名:内分泌代謝内科 患者名:厚生 太郎 患者ID:112-0013 医師名:労働 二郎 処方日:2018/1/18	①グリメピリド 0.5mg錠 1回1錠 (1日1回) 朝食後 28日分
	②メトホルミン塩酸塩 250mg錠 1回2錠 (1日3回) 朝昼夕食後 28日分

実習で「お薬手帳」を実際に見たことがないと、出題の意図を読み取れなかったと思われる。

2.診療上の判断を問う出題

C36 44歳の男性。消化管検査のため1日絶食が必要になり、末梢静脈から1,500mL/日の輸液を行うことになった。耐糖能異常と電解質異常はない。身長167cm、体重61kg。Na⁺は成人推奨量を、K⁺は平均的な経口摂取量の半分程度を入れたい。アミノ酸や脂肪乳剤の投与は行わない。輸液の既製市販品の組成を示す。一日分の輸液として適切なものはどれか。

A液: Na 30 (mEq/L), K 20 (mEq/L), ブドウ糖 20 (g/dL)
B液: Na 84 (mEq/L), K 20 (mEq/L), ブドウ糖 3.2 (g/dL)
C液: Na 35 (mEq/L), K 20 (mEq/L), ブドウ糖 4.3 (g/dL)

- A A液1500mL B B液1500mL C C液1500mL
D 乳酸リンゲル液1500mL E 生食1000mL+5%ブドウ糖液500mL

選択すべき輸液を患者の病態や目的から考えさせ、かつ各輸液の組成の知識を求めている。「この疾患には○号液」という暗記では通用しない。輸液オーダーを計画させるなど、実習におけるより深い経験が求められる。

D19 72歳の女性。動悸を主訴に来院。5年前に大動脈弁狭窄症に対して機械弁による大動脈弁置換術を受けており、定期的を受診し、ワルファリンを内服中。来院時の心電図で新たに心房細動を認めた。意識清明、脈拍96/分、不整。血圧120/76mmHg。貧血を認めない。頸部血管雑音を認めない。呼吸音に異常を認めない。神経学的所見に異常を認めない。血液所見:赤血球468万、Hb 13.7g/dL、白血球7,300、血小板18万、PT-INR 2.3(基準0.9~1.1)。この患者への対応として適切なものはどれか。

- A 止血薬の点滴静注を行う B ヘパリンの皮下注を追加する C 現在の抗凝固療法を継続する
D ビタミンKの投与を行う E ワルファリン以外の経口抗凝固薬を追加する

外来再診症例に対する治療方針の変更が必要かを判断させる問題。「現状維持」と判断させることも特筆すべき。臨床実習では入院症例だけでなく外来の経験も求められる。

3.社会のニーズを反映した出題

E31 旅客機内でドクターコールがあり対応した。目的地の空港のスタッフに情報提供した方が良いと判断し、乗務員に伝えたところ、「所見をメモして欲しい」と依頼され記載した文面を示す。原因として考えられるのはどれか。

A 78-year-old female passenger has developed swelling of her left lower leg towards the end of a long-haul flight. She does not complain of any pain at rest. She has pitting edema of her left lower leg, but no color or temperature changes are observed. Calf pain is induced on dorsiflexion of her left foot. Because she suffers from shortness of breath, the possibility of pulmonary embolism should be considered, and transfer to an appropriate hospital is advised.

- A Acute kidney injury B Deep venous thrombosis
C Femoral neck fracture D Heart failure E Peripheral arterial disease

英語の読み書きは医師にとって必須の素養である。学生時代から積極的に英語の情報に触れる必要がある。

E43 高血圧と心房細動のある患者が脳出血を発生したが順調に回復した。この患者に抗凝固薬を再開すべきかどうかについて文献検索を行うため、患者の問題をPICOで定式化した(右表)。○に適さない項目はどれか。

- A 出血 B 心房細動の改善 C 生命予後の延長
D 入院機会の減少 E 脳梗塞発症率の低下

C54-55 84歳の女性。ふらつきがあり、頻回に転倒するため来院。2か月前に腰椎圧迫骨折をきたし自宅近くの病院に入院し、入院中はベッド上で安静にしていた。1か月後、自宅に退院したが、退院後にふらつきを自覚し、転倒するようになった。ふらつきは特に朝方に強い。難聴や耳鳴りはない。入院した病院で頭部を含めた精査を受けたが原因が明らかでなく、症状が改善しないため受診した。バイタルサイン、身体診察に特記すべき異常なし。握力14kg(基準18以上)、筋強剛なし。振動覚、腱反射は正常。四肢振戦なし、指鼻試験正常、Romberg徴候陰性。高齢者総合機能評価(CGA):基本的日常生活動作(Barthel指数)満点、手段的日常生活動作(IADLスケール)満点、MMSE 27/30点、Geriatric Depression Scale 2点(基準5点以下)。

[C54] 患者の状態として最も考えられるのはどれか。

- A ADL低下 B 抑うつ C 身体機能低下 D 認知機能低下 E 社会的支援不足

[C55] 患者のふらつきと易転倒性の原因として最も考えられるのはどれか。

- A 貧血 B 廃用症候群 C 起立性低血圧 D 認知機能障害 E 糖尿病性神経障害

老年医学の基礎知識は今後どの領域の医師にも求められる。112回の出題数は内科主領域や救急に匹敵する多さだった。

Patient: 高血圧症と心房細動とを合併した脳出血の女性
Intervention: 抗凝固薬内服再開
Comparison: 抗凝固薬内服中止
Outcome: <?????>

学生に論文を読ませる際は、EBMを意識させながら行わせる。